

福島中央テレビ制作ドキュメンタリー  
《「汐凧ちゃん」東日本大震災 娘が遺してくれたもの》  
第61回ギャラクシー賞テレビ部門「奨励賞」を受賞

この度、放送文化の向上に貢献した番組や個人・団体を表彰する「ギャラクシー賞」(放送批評懇談会)2023年度テレビ部門において、福島中央テレビ制作のドキュメンタリー《「汐凧ちゃん」東日本大震災 娘が遺してくれたもの》が奨励賞を受賞しました。

本ドキュメンタリーでは、東日本大震災による津波にのまれ、突然消えた娘を捜してきた大熊町の男性を約10年かけて取材。悲しみや後悔に悩まされる日々を送りながらも、男性が前に歩む姿に密着しました。



番組名:「汐凧ちゃん」東日本大震災 娘が遺してくれたもの

放送:2024年1月29日(月)24:54~25:54

制作:福島中央テレビ

ディレクター:渡辺早紀(旧・報道局 報道部、現・コンテンツ戦略局 営業企画部)

プロデューサー:岳野高弘(報道局 報道部 部長)

ナレーター:大橋聡子(福島中央テレビアナウンサー)

番組内容:

2011年に発生した東日本大震災による津波によって、父、妻、二女を亡くした大熊町の木村紀夫さん。震災の後、父の王太郎さんと妻の深雪さんの遺体は発見されたが、二女の汐凧ちゃんだけが、行方不明のままだった。突然消えた娘を、手がかりをもとに捜し始めたが、福島第一原発の事故により立ち入りが制限され、思うようには進まなかった。震災から5年以上になり遺骨の一部が見つかるも、素直に喜ぶことはできなかった。悲しみや後悔を抱えながらも、娘を想う人たちとともに、前に進んできた木村さん。前に進んでいく先に想うことは。